



— 第5回 —
**Sport
in Life
Award**

受賞プロジェクト
事例のご紹介

目次

第5回Sport in Lifeアワード大賞(最優秀賞)

- <松浦造園株式会社> 02
「造園職人の職業病」解決に向けた取組から始まった、
社員主導の健康づくりと社内ジムの運営

優秀賞/企業部門

- <株式会社アジャイルウェア> 04
運動×交流でウェルビーイング推奨
- <株式会社川上板金工業所> 05
みんなが集うKパーク！みんなで行うラジオ体操！
つながる・ひろがるスポーツの和！
- <坂川建設株式会社> 06
ウォーキングで社員の健康と社会への還元を目指す「健康チャレンジ活動」
- <大橋運輸株式会社> 07
地域健康プロジェクト

優秀賞/団体部門

- <神奈川リハビリテーション病院> 08
障がい者の地域活動拠点の構築・パラスポーツ体験会の実施
- <公益財団法人日本ゴルフ協会> 09
ゴルフで健康寿命をのばそう！「JGA WAGスクール」
- <公益財団法人身体教育医学研究所> 10
Para Sport in Life for Everyone
～誰もがパラスポーツを楽しむ地域づくり～
- <一般社団法人ランニングと朝食> 11
ランニングと朝食～1,800名が参加する地域循環型スポーツコミュニティ～

優秀賞/自治体部門

- <北海道東川町> 12
コンディショニングを起点にした全世代に向けたスポーツ・健康まちづくり
- <久喜市> 13
よしみちスポーツ — 商業施設発・日常スポーツ接点づくり —
- <豊田市> 14
こどもの運動遊び教室

第5回Sport in Lifeアワード 実施概要

実施概要

主催	スポーツ庁 (Sport in Life プロジェクト)
実施期間	◆応募受付 令和7年10月20日 (月)～12月12日 (金) ◆表彰式 令和8年3月3日 (火) 予定 会場: 都内
応募対象	地方公共団体・関連団体、スポーツ関連団体 (スポーツに関する活動を主に実施している団体/競技団体など)、経済団体、学校・教育団体、医療福祉団体、民間企業など、アワード趣旨に賛同いただいている方はどなたでも応募可能です。 ※令和6年4月1日以降で実施された活動を含む取組を対象とします。 ※同一団体が複数応募することが可能です。件数に制限はありません。
応募要件	上記応募対象に加え、Sport in Lifeコンソーシアムへ加盟いただくことが必須です。加盟申請がお済みでない方は申請をお願い致します。
募集部門	<input type="checkbox"/> 企業部門 <input type="checkbox"/> 団体部門 (大学等を含む) <input type="checkbox"/> 自治体部門
取組ターゲット	<input type="checkbox"/> 若者・子供 <input type="checkbox"/> 働く世代・子育て世代 <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> 障害者 ※複数選択可
応募先	Sport in Life 運営事務局
応募方法	応募申込書をメール添付にてお送りください。 詳細はSport in Life公式ホームページ (https://sportinlife.go.jp/award/) 参照。
スケジュール	◆応募期間: 令和7年10月20日 (月)～12月12日 (金) 審査: 令和7年12月下旬～令和8年1月 受賞候補者通知: 令和8年2月中旬頃 表彰式: 令和8年3月3日 (火) 予定

表彰



大賞(最優秀賞) …… 1件

優秀賞(企業部門) …… 3～5件程度 優秀賞(団体部門) …… 3件程度 優秀賞(自治体部門) …… 3件程度

奨励賞

※なお、奨励賞については、大賞、優秀賞以外の応募団体の中から選考しお授けします。

受賞後の特典

特典 1 受賞取組内容を事例集にして「Sport in Life」ウェブサイト*に掲載!

<https://sportinlife.go.jp/>

特典 2 受賞ロゴマークを使用可能!

特典 3 各種メディアの他、Sport in Life 関係のWEB媒体・イベント等でも皆さまを紹介!

令和6年度「Sport in Lifeコンソーシアム総会」第4回「Sport in Lifeアワード」表彰式

審査

5つの評価視点

評価視点	具体的なポイント	(参考)第3期スポーツ基本計画の関連する内容
Sport in Lifeの理念	(1) Sport in Lifeの理念を理解しているか?	スポーツが生産を通じて人々の生活の一部となることで、スポーツを通じた「楽しさ」や「喜び」の拡大、共生社会の実現など、一人一人の人生や社会が豊かになるという理念
スポーツ実施者の増加	(2) スポーツを行うきっかけづくりにつながっているか?	成人の週1回以上のスポーツ実施率が70%になることを目指す
スポーツ習慣化の推進	(3) スポーツを行う習慣化につながっているか?	1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上実施し、1年以上継続している運動習慣者の割合の増加を目指す
スポーツへの親しみやすさ	(4) スポーツへの親しみやすさにつながっているか?	競技に勝つことだけではなく「楽しさ」や「喜び」もスポーツの大切な要素であるという認識の拡大を図る
スポーツの裾野の広がりやすさ	(5) 企業・団体・自治体のモデルとして他の地域や属性などへの広がりが期待できるか?	—

募集する取組ターゲット(例)

1	若者・子供向けアクション	大学生がキャンパスでスポーツをする機会の確保、学生時代から始めて生涯にわたり継続できる運動習慣のきっかけづくりにつながった。空き地や生活道路など、若者・子供が身近な場所で自由に運動遊びをする環境を整備した。親子で一緒にスポーツを楽しむ取組が広がった。
2	働く世代・子育て世代向けアクション	仕事や通勤をしながら、ちょっとした工夫でできる運動を推進した。子供をきっかけに、親世代のスポーツ実施が促進された。
3	女性向けアクション	家事や日常の動作の中で、いつの間にか運動をしている仕掛けをつくった。女性特有の悩みや美容、ファッションなどを入口にスポーツ実施につながった。
4	高齢者向けアクション	無理のない範囲で自分にあったスポーツを実施できる環境を整備した。地域でのスポーツ活動を通じて、世代を問わないスポーツ交流へつながった。
5	障害者向けアクション	障害があっても気軽に地域でスポーツを楽しめる環境を整備した。障害のある人とない人が一緒に楽しめるスポーツを実施した。スポーツを通じて「地域デビュー」することが促進された。

審査員



阿部 厚司
千葉大学 コミュニティ・イノベーションオフィス
特任専門員/地域コーディネーター
株式会社ミライノラボ 取締役COO



香村 恵介
名城大学 農学部/大学院 総合学術研究科
准教授



伊藤 数子
NPO法人STAND 代表理事
リーフラス株式会社 取締役



高橋 伸佳
兵庫県立大学法人芸術文化観光専門職大学 教授
特定非営利活動法人日本ヘルスツーリズム振興機構
副理事長



甲斐 裕子
公益財団法人 明治安田厚生事業団
体力医学研究所副所長・上席研究員



中垣内 真樹
鹿屋体育大学 スポーツ生命科学系 教授
スポーツイノベーション推進機構
ヘルス・スポーツプロモーション部門長

プロジェクト名	「造園職人の職業病」解決に向けた取組から始まった、社員主導の健康づくりと社内ジムの運営	所在地	〒690-0033 島根県松江市大庭町728-6
受賞者	松浦造園株式会社	URL	https://ma2urazoen.jp/

①取組の経緯

【事業紹介】

造園・土木工事を基盤に、とび・土工、石工事、そして林業や農業までを総合的に手掛ける建設事業者です。現在社員数は50名を超え、2拠点・5部署の組織体制で事業を展開しています。

【取り組みの背景】

造園・土木をはじめとする建設業では、「腰痛や肩痛は職業病だから仕方がない」という業界特有の認識がありました。社内においても、年齢を重ねるにつれて身体的負担を抱える職人が多く、仕事と健康維持の両立は難しいという雰囲気がありました。加えて、組織体制の拡大に伴い、拠点・部署の分散による一体感の乏しさやワークエンゲージメントの低さが課題となっていました。

【取り組みの概要】

自身や同僚の職業寿命延伸を「我がごと」として捉える、健康づくりの仕組み構築を開始しました。地元・島根の株式会社フジコーポレーション(理学療法士・作業療法士・アスレティックトレーナー)の専門家と連携し、アンケート・現場のヒアリングと職人の動作の分析・職業病予防に関連する運動機能を社員ごとに可視化していきました。蓄積したデータに基づき、業務改善の仕組みを考えるワークショップを開催しました。現場で生じる健康課題を整理し、実践可能な改善活動を考案・共有することで、一人ひとりの社員が「我がごと」の認識となりました。

社員と専門家がワンチームになって企画・設計した「造園職人の職業病を防ぐストレッチ体操」は現場職員が体操モデル、事務職員がナレーション役を務めることで、愛着のあるものにしました。季節に応じて体操メニューを変更する工夫も盛り込み、マンネリ化防止も図り現在も毎日実践しています。

②事業の概要と特徴

島根県の特産品(しじみ)を景品にした健康イベント・定例体力測定会において優秀だった社員を年代別(20~70代)で表彰しました。

表彰者を中心に、社員の健康を考える社員のための健康づくり委員会(体操部)を設立し、ロゴ入りTシャツを製作しました。



<体操部のロゴ>



敷地内の「プレハブの利活用」について社員の声を募りました。その結果、「リラックスとトレーニングを両立する社内ジム」構想が支持され、プロジェクトがスタートしました。『身体と心を整える』体操部のコンセプトを反映した社員による社員のためのジムが完成しました。さらなる職業病対策として入門ピラティス講座を開催しました。ジムに設置したモニターでいつでもピラティス動画の視聴が可能な環境に整えています。これからも、同じ思いを持った仲間を増やすため、体操部の活動をSNSを活用し、広く社外へ発信していきます。



<体操部のSNS>

③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

ヒューマンリソースが限られる中小企業に汎化可能なモデルであると考えています。

- ①「職業病」という現場の課題を起点に、運動やスポーツ活動で予防・解消すること。
- ②社員の実務経験を活かしたプロジェクトにしたこと(プレハブのリフォームによる社内ジム建築)
- ③地域の特産品(宍道湖しじみ)を景品にすることで、家庭内でも健康づくりが話題になること。
- ④ワークエンゲージメント、リクルートに良影響を与えること。(ここ2年間で12名の採用内定)
- ⑤運動・スポーツに取り組むことが職業病の解消に繋がり、企業の経営課題を解決すること。



<会社HP>

審査員の評価コメント(抜粋)

- ① 実際に身体をかなり使う職業において、社員の自発的な取組により、効果が確認された好事例だと思います。同様の取組が広がることを期待します。
- ② 取組により社員の腰痛が半減するなど効果が認められていることや、コミュニケーションの促進やワークエンゲージメントの向上に繋がっている点の評価。地方の中小企業からの発信は、今後の横展開にも期待できると思います。
- ③ 造園職人の職業病予防という現場課題を起点に、社員主導の健康づくりへと発展し、組織として定着させている点を高く評価しました。健康づくり委員会の設置による「ボトムアップ」、表彰制度・インセンティブの付与・社内スポーツ大会の実施などの「トップダウン」、体力測定やワークショップでの「外部専門家との連携」、社内ジムの設置という「環境整備」、さらに健康指標・ワークエンゲージメント・採用という「成果の可視化」まで、一連の成功要因がバランスよく実装されています。現場系・地方企業における健康経営の優れたモデルケースとして、他業界への波及も期待できることから、大賞に選定しました。
- ④ 社員の方々が自発的に取り組み、事業の技術を活かしたアイデアを具現化している点が特に優れていると感じました。多くの中小企業の励みになることを願っています。
- ⑤ 似たような取り組みが多い中で、これまでにない事例であると思いました。
- ⑥ 職業病予防の観点からのストレッチ体操の実施にとどまらず、社員のコミュニケーション促進やワークエンゲージメントの向上等の副次効果にもつながっている素晴らしい取り組みだと思います。
- ⑦ 土木・造園工事から農林業などの幅広い「現場」にて、従業員である「職人」の職業病予防と健康維持を目的とした取り組みです。専門家の意見も取り入れながら企業と従業員が一体となって、季節ごとに異なる体操メニューをはじめとする健康課題改善の仕組みを考案するとともに、体力測定で優秀な社員を表彰してそのメンバーからなる「健康づくり委員会」が社員向けの様々なスポーツイベントを企画するなどの多様な取り組みを展開しています。一般的な「社員向けの健康経営」をさらに進化させ、従業員自らが健康に対する問題を「我がごと」として捉えて自主的な活動とすることで、健康づくりを継続するためのモチベーションアップにつながった大変ユニークでサステナブルな素晴らしい取り組みだと思います。



実際の現場を視察させていただきました！

第5回「Sport in Lifeアワード」審査員
甲斐 裕子 氏
公益財団法人 明治安田厚生事業団
体力医学研究所副所長・上席研究員

社員自ら手掛けた社内ジムは、仕事後に社員が集まる放課後の部室のようでした。社員の自主性を信じて見守る社長、応援する事務、社内の取組を「楽しい趣味」と言い切る体操部。「何をやるか」だけでなく「どうやるか」の大切さを教えてくれる素晴らしい取組でした。

プロジェクト名	運動×交流でウェルビーイング推進	所在地	大阪府大阪市
受賞者	株式会社アジャイルウェア	URL	https://agileware.jp/

①取組の経緯

コロナ禍をきっかけとしたウェルビーイング経営への取り組み — 運動不足解消と社内交流促進による社員のウェルビーイング向上 —

新型コロナウイルス感染症の拡大により、アジャイルウェアでは全社員がフルリモート勤務となり、運動不足の増加や社員同士のコミュニケーション機会の減少が課題となりました。

当社では、十分な休息と無理のない健康づくりが良い仕事を生み出す土台になるという考えのもと、コロナ禍を契機にウェルビーイング経営への取り組みを本格化。運動不足の解消と社員同士の交流促進を通じて、社員のウェルビーイング向上を目指しています。

その取り組みとして、社員が日常生活の中で自然に運動を取り入れられるよう、ウェルビーイングアプリ「KIWI GO」を開発。社内ウォーキングイベント機能や社内サークル機能を活用するとともに、マラソン大会やスキー合宿、水泳・ダンスなどのスポーツ活動についても会社が費用を補助し、従業員の挑戦を後押ししています。

さらにオフィス移転を機にボルダリングウォールや卓球台、ウォーキングマシンなどの運動設備を導入し、業務の合間にも気軽に身体を動かせる環境を整備しました。これらの取り組みにより、社員が日常生活の中で自然に身体を動かす文化の定着を目指しています。



②事業の概要と特徴

1. 日常的に身体を動かせるオフィス環境
社内に**ボルダリング**、**卓球台**、**ウォーキングマシン**などを設置し、業務の合間でも気軽に身体を動かせる環境を整備。運動を特別な活動ではなく「日常の行動の一部」として取り入れることを目指す。



2. 週1回の「ゆるトレ」



・座ってできる筋トレ
・立って行うストレッチ
を組み合わせた「ゆるトレ」を実施。大阪オフィスで週1回/業務時間中に開催し、東京オフィスやリモート勤務の社員もオンラインで参加。

3. 自社開発アプリを活用した社内ウォーキングイベント
自社アプリKIWI GOを活用し、社員をチーム分けして月2回の社内ウォーキングイベントを開催。**歩数の多いチームにご褒美が出る仕組み**でゲーム性を取り入れ、普段運動をしない社員でも参加しやすい仕組みを提供。



4. スポーツ大会参加やサークル活動を補助
スポーツ大会への参加(例:那覇マラソン・WFP主催ウォーキングイベント等)及び運動系社内サークルが実施するイベント(例:バドミントン・フットサル・ダンス等)については、**参加費・備品代・会場レンタル費等を会社が補助し、挑戦を後押し。**



③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

アジャイルウェアでは、社内運動設備の整備やスマートバンドと自社アプリ「KIWI GO」を活用した運動促進により、従業員の運動参加率と運動頻度が大きく向上しました。アプリを活用して月2回開催している社内ウォーキングイベントには**62名中50名(約81%)**が参加し、週1回の社内トレーニング「ゆるトレ」には 毎回**約15名(約24%)**が参加しています。

さらに、マラソン大会などのスポーツイベント参加費や運動系サークル活動への補助制度を導入したことで、現在では**社員の約半数が何らかの運動サークルに自発的に所属し、新規スポーツ実施者の獲得と、継続的な運動活動につながっています。**

また、本取り組みは「**運動設備**」「**アプリ**」「**イベント**」を組み合わせた再現性の高い仕組みであり、企業や自治体などでも応用しやすいモデルとして横展開が期待されます。



プロジェクト名	みんなが集うKパーク！みんなで行うラジオ体操！つながる・ひろがるスポーツの和！	所在地	香川県仲多度郡琴平町榎井669番地1
受賞者	株式会社川上板金工業所	URL	https://www.kawakamibankin.co.jp/

①取組の経緯

定期健康診断の結果が取組を行うきっかけとなりました。

定期健康診断の結果、4割以上の社員がメタボリックシンドロームに該当していることが判明し、「健康な会社づくり」を行っていきたく思ったのがきっかけです。

メタボリックシンドローム該当者の削減に向けた様々な取り組みの中で、「楽しさ」や「高揚感」を感じながら生活の一部として取り組める環境、すなわち家族や仲間と一緒にすることが運動継続のコツであると考え、2025年より「健康な会社づくり」から「健康な地域づくり」を目指した取組を行っています。

②事業の概要と特徴

◇事業概要

2007年9月から毎朝のラジオ体操を継続し、2024年6月から年に1回弊社が主催するイベントに全国ラジオ体操連盟の指導員をお招きし、地域の方を巻き込んだラジオ体操祭を開催しています。

参加者全員がラジオ体操を行うことでたくさんの人にラジオ体操の重要性（意義・目的・効果）を伝えるだけでなく、社員や社員の家族の健康維持・増進を目指しています。

ラジオ体操やイベントは弊社まんのう工場で開催しており、2025年5月31日にはかんぼ生命保険 ラジオ体操推進担当 五日市裕子様を指導員としてお招きして、「1500人みんなのラジオ体操」を行いました。

2021年には、施設内にパットゴルフ施設、2025年4月には施設の隣に「Kパーク」という公園を開設しました。

「Kパーク」には遊具やパットゴルフ場を設置し、大人から子どもまで遊べる施設となっています。

どの取組みも無料で参加いただける内容となっており、地域の子どもたちや家族連れが安全に楽しむことができる憩いの場として利用されています。

5月30日には「まんのう工場」と「Kパーク」を活用した「2000人みんなのラジオ体操祭」の開催が決定しております。

◇効果

2024年6月1日に開催された「1000人みんなのラジオ体操」に続き、2025年5月31日に開催された「1500人みんなのラジオ体操祭」においても社員の参加率は100%となりました。昨年度に比べて、1.5倍の人が参加され、更に弊社の取組についての理解を得ることができたと感じています。

さらに毎朝のラジオ体操や「1500人みんなのラジオ体操」の取組みを行った結果、2025年4月以降、毎朝のラジオ体操を週1回以上実施している社員の割合は34名（約74%以上）となり、徐々にラジオ体操に参加している社員が増えている（スポーツ実施頻度が向上している）傾向となっています。

また、「Kパーク」の開設により社員から同好会の申請があり、ゴルフ同好会やウォーキング同好会を創設しました。

昼休みやその他の休憩時間にウォーキングをしている社員や、就業時間後や休日にパットゴルフ施設や公園を利用する社員も増え、月曜日から土曜日の中で毎日10名（約20%）の社員が毎日身体を動かしており、開設前よりもスポーツをしている社員の割合は向上傾向にあります。

「1500人みんなのラジオ体操祭」の影響もあり、親子や子ども同士で身体を動かす姿も見受けられ、社員だけでなく地域全体でスポーツ実施頻度が向上しています。



③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

「Kパーク」の開設により、はじめは数人でウォーキングを行ったり、パットゴルフを楽しむ姿を目にしておりましたが、日に日に増え、社員からの要望でスポーツ同好会が創設されるまでに拡大しました。それ以外でも、休日に子どもを連れて公園で身体を動かす社員や地域の方も見受けられます。

また、「みんなのラジオ体操」以後、ラジオ体操を行う社員の数が増えただけでなく講師のポイントを意識して運動している社員も見受けられ、以前よりも質の高いラジオ体操を行うことができるようになりました。

スポーツ実施者の増加が見られ、講習などで知識も大切ですが、実際に身近に運動できる「Kパーク」の開設や、「みんなのラジオ体操」を開催したことが、社員や地域全体のスポーツを行うきっかけづくりにつながったと感じております。

プロジェクト名	ウォーキングで社員の健康と社会への還元を目指す「健康チャレンジ活動」	所在地	福井県福井市
受賞者	坂川建設株式会社	URL	https://sakagawa-kk.jp/

①取組の経緯

社長の熱意から始まった健康経営

弊社は福井県を拠点として、国土交通省や各種公団等の土木、民間建築等を手掛ける総合建設業者です。定年後の再雇用年齢上限を67歳まで引き上げたことで60歳以上の社員が年々増加し、病気や生活習慣病に罹患する社員が増えていることが懸念されていました。

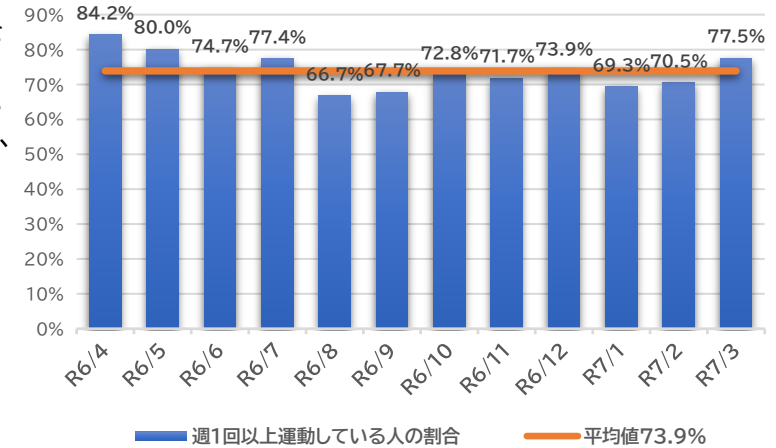
2016年に就任した現社長は以前から健康経営に関心を持っており、社員が健康で元気に長く働き続けられるような仕組みを作る必要があったと考えていました。そこで、誰でも気軽に始めやすいウォーキングを全社員に推奨することにし、同年から弊社の「健康チャレンジ活動」がスタートしました。

取組効果

令和6年度は、1日8,000歩以上のウォーキングを週1回以上実施した社員の割合が、年間平均で73.9%となりました(令和5年度平均は75.1%)。健康チャレンジ活動も今年で10年目を迎えますが、定期的に運動する習慣が社員の間に定着してきているように見受けられます。

なお、令和7年度の定期健康診断結果の有所見率平均値を令和6年度のものと比較したところ、BMI値-0.8%、腹囲-1.0%、血圧-5.0%、肝機能-1.5%、糖代謝-1.4%の改善がみられました。

令和6年度 ウォーキング等運動の実施状況



②事業の概要と特徴

取組内容

- ① 全社員に万歩計を支給
- ② 1日8,000歩以上のウォーキングを月18日以上かつ月180,000歩以上行った場合、または週3回以上スポーツジムを利用した場合に、該当社員に月額3,000円を支給
- ③ ②を3ヶ月連続で達成した社員に対し、健康に関する記念品を授与(家族と共食!健康食材セット)
- ④ SDGs活動「1.貧困をなくそう」を目標として、社員1人が1日8,000歩のウォーキングを達成する度に当社が100円の積み立てを行い、社会福祉団体に寄付を行う



③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

当活動における昨年度(令和6年7月～令和7年6月)の積立金1,259,000円は、ふくい市民活動基金に寄付しました。

福井市ではこの基金を財源として、様々な市民活動団体が行う地域課題の解決を目的とする事業や、小中学校のボランティア活動への支援を行っています。支援した活動の中には、スポーツを通じて地域づくりを行う事業もあり、当社の取組を通して、地域のスポーツ活動や健康づくり活動の広がりが期待されます。

<支援した活動の事例>



【至民中学校】

地域のスポーツ大会で参加者への飲料配布や運営補助のボランティアを行った。

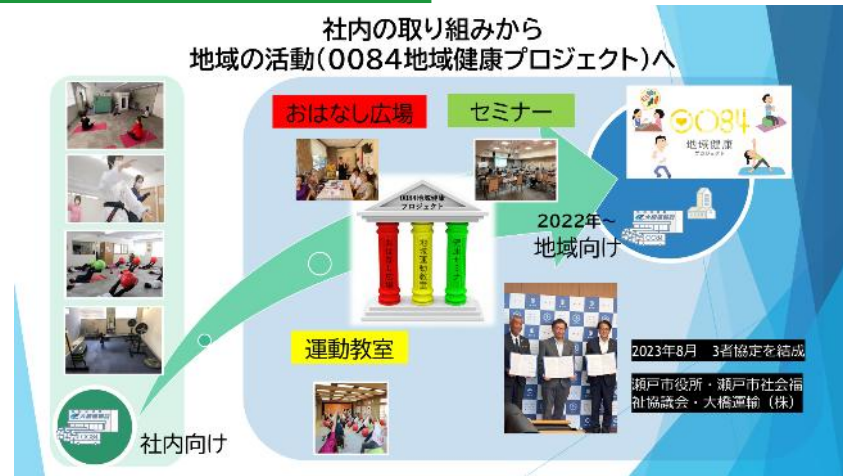


【春山モルッククラブ】

老若男女が楽しめるモルックの体験会や大会を開催し、地域住民のつながりや活力を高めた。

プロジェクト名	地域健康プロジェクト	所在地	愛知県瀬戸市
受賞者	大橋運輸株式会社	URL	https://www.0084.co.jp/

①取組の経緯



当社は「治療より予防」「健康あっての安全」という考えのもと、15年以上にわたり社員の健康づくりに取り組み、運動・栄養・睡眠・メンタルヘルスを総合的に支える健康経営のノウハウを蓄積してきた。

一方、瀬戸市では高齢者割合が3割を超えるという地域課題があり、健康寿命の延伸に向けた取り組みの必要性が高まっていた。こうした地域課題に対し、企業として培った健康経営のノウハウを地域にも還元したいという思いから、2022年に「健康寿命を延ばす」ことを目的とした『0084地域健康プロジェクト』を立ち上げた。

2023年8月には、瀬戸市役所・瀬戸市社会福祉協議会・当社の三者で地域の健康活動に関する三者協定を締結し、地域住民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる社会づくりを進めている。

『0084地域健康プロジェクト』では、ヨガ・太極拳・バランスボール教室を無料で開催し、誰もが気軽に運動を始められる環境づくりを進めている。また、管理栄養士による健康相談「おはなし広場」や健康セミナーも組み合わせ、運動を中心とした総合的な健康支援の場として発展してきた。これらの取り組みは現在も継続しており、地域に根づいた健康づくりとして定着しつつある。

②事業の概要と特徴

誰もが参加しやすい地域運動教室と、日常的な健康づくりの場づくり

- 無料でヨガ・太極拳・バランスボール教室を年間72回開催。定員30名は予約開始数分で満員になる人気教室。
- 瀬戸市・瀬戸市社会福祉協議会との三者協定により、公的支援と民間の力が合わさった運営体制を実現。
- 運動教室予約のLINE登録は約500件。高齢者でも使いやすいようスタッフがサポートし、初めての方のための新規枠も設置。
- “おはなし広場”や健康セミナーも実施し、地域の皆さんが運動を日常に取り入れるきっかけをつくっている。
- プロジェクト開始から2026年2月末時点で延べ226回7,500名以上が参加。外出や身体活動の促進、介護予防にもつながり、地域に根づいた健康づくりとして定着している。



③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

参加しやすい環境づくりが生むスポーツ人口拡大

- 生活の中で自然に運動を始められる仕組み
ヨガ・太極拳・バランスボールなど、初心者でも取り組みやすい運動を定期開催し、運動を始めるきっかけになっている。
- 誰でも参加しやすい環境整備
無料・予約制で高齢者や運動初心者でも安心。専門講師のサポートで心理的ハードルを軽減。
- 簡単に導入しやすい予約システム
LINEで簡単に予約でき、登録者数も増加。経済的負担がなく、初めての人でも参加しやすい。
- 継続的な行動変容の実績
10年以上の健康経営で、社員・地域住民に運動習慣が定着。持続的にスポーツ人口を押し上げる基盤に。
- 地域連携による広がり
瀬戸市・社協との協働で地域ぐるみの健康文化を形成し、スポーツ参加の土壌を創出。

プロジェクト名	障がい者の地域活動拠点の構築・パラスポーツ体験会の実施	所在地	神奈川県厚木市七沢516
受賞者	神奈川リハビリテーション病院	URL	https://www.kanariha-hp.kanagawa-rehab.or.jp/

①取組の経緯

1. 多職種連携によるリハビリテーション医療の提供

当院は、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカーに加え、体育指導員、義肢装具士、エンジニアらが連携する多職種チームにより、障害者の社会復帰を支援している。

2. 令和3年度「パラスポーツ体験会」の実施と成果

令和3年度、病院を会場としたパラスポーツ体験会を実施しました。体験会参加者を対象とした調査の結果、スポーツを継続している障害者の約60%が「医療従事者の勧め」をきっかけとしていることが明らかとなった。

一方で、医療従事者自身のパラスポーツ体験率はわずか20%にとどまっており、スポーツ開始のきっかけを握る医療従事者が、パラスポーツを十分に理解・体験する機会が不足しているという課題が明らかとなった。

3. 病院を「活動拠点」とする新たな展開へ

この課題を解決するため、病院を地域の活動拠点としたパラスポーツ体験会の取組を構築し、専門職が支える安心して参加できる環境を提供している。



②事業の概要と特徴

1. 目的

スポーツ開始の「きっかけ」を提供するとともに、継続的なスポーツ参加を促進する

2. 取組内容

地域向け体験会(年4回)及び医療従事者向け体験会(年1回)の開催

3. 成果

令和6年度の地域向け体験会参加者は前年度比約3.5倍に増加した。体験会を契機として、神奈川県障害者スポーツ大会への出場や地域のパラスポーツクラブへの加入など、継続的なスポーツ参加につながっている。

4. 特長

専門職の支援による安全な環境と参加しやすい場づくりにより、スポーツ参加の心理的ハードルを下げている。

③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

「開始」から「継続」への具体的な変化:

体験会をきっかけとして、神奈川県障害者スポーツ大会への出場や地域クラブへの加入へと繋がっている。

医療と地域の支えあう好循環:

医療従事者が自ら体験することでスポーツ開始のきっかけづくりにつながるだけでなく、地域活動のサポーターとなるなど、医療と地域が支え合う好循環が生まれている。

地域連携を生むハブ機能:

医療機関を拠点として、障害者、医療従事者、地域のパラスポーツ団体、行政等をつなぐハブ機能を果たすことで、スポーツ参加の機会を広げている。



プロジェクト名	ゴルフで健康寿命をのばそう！～JGA WAGスクール～	所在地	東京都中央区八丁堀2-24-2八丁堀第一生命ビル4階
受賞者	公益財団法人日本ゴルフ協会	URL	https://www.golfer-support.com/

①取組の経緯

ゴルフは、心身の健康増進に寄与することを示す多くの科学的知見が蓄積されているスポーツです。一方で、ゴルフ未経験者や休眠ゴルファーは依然として多く、健康づくりの手段として十分に活用されているとは言えません。

日本ゴルフ協会(JGA)は、ゴルフを「競技」だけでなく「国民の健康資源」と捉え直し、2022年にゴルフ振興推進本部を設立。アスリートゴルファーに限らず、一般市民やゴルフ未経験者も対象とした普及・健康施策を、関連団体や医学会、地域自治体と連携して推進しています。

その中核テーマが「ゴルフと健康」です。ゴルフを通じて、運動習慣の定着、社会的つながりの形成、健康寿命の延伸を目指しています。

JGAでは、当該本部の中に「ゴルフと健康部会」を置き、健康維持増進のためのゴルフスクール「JGA WAGスクール(全8回)」の普及振興にも取り組んでいます。

また、2025年度、ゴルフをすることによって得られる健康効果をさらに明らかにし、ゴルフ参加を促進するため、産学官と連携し、『JGA WAGスクール』を活用したゴルフの健康および認知機能への影響に関する研究を開始しました。

『ゴルフ健康週間』

国の定める毎年9月の「健康増進普及月間」のうちの一週間を『ゴルフ健康週間』として設け、健康維持増進のためにゴルフを始める、続ける、復帰するきっかけとして頂くべく、本スクールの一日本体験版である1Dayプログラムを全国のゴルフ施設と共に実施しています。

さらに、この期間に実施される日本シニアオープンゴルフ選手権の会場では、ゴルフと健康に関するイベント等も実施しています。

『ゴルフ月間』

2024年度より、気候が安定し屋外でのスポーツに最適な5月を『ゴルフ月間』として定め、全国的なゴルフの普及促進に向けた取り組みを強化しました。この1ヵ月間を通じて、「JGA WAGスクール 1Dayプログラム」の参加機会を増やし、より多くの方々にゴルフの楽しさと魅力を体感していただくことを目指します。

②事業の概要と特徴

*JGA WAGスクール

ゴルフの技術向上ではなく、運動習慣の促進やとコミュニティ形成に重点をおいたプログラムで、開催条件は地域自治体の後援があること等を必須とし、ゴルフ施設と地域自治体と共に住民の健康維持増進のために開催しています。

*JGA WAGクラブ

スクール卒業後もゴルフを継続できる環境を整え、特にシニア層の健康を損なう原因となる孤独・孤立を防ぐ等、ゴルフを通じて地域社会に根差した活動を行っています。

*JGAナショナルオープン競技会場でのイベント

社会貢献、地域振興の観点から、毎年日本シニアオープンの会場において「ゴルフで健康寿命をのばそう！プロジェクト」と題し、ゴルフ場が立地する自治体の後援を受け、JGA WAGスクール1Dayプログラムの実施や、ゴルフと健康をテーマにしたトークショー、心身の健康のために芝の上を歩いて頂くスタンプラリー「ごる印めぐり」等を開催し、日本オープン、日本女子オープンの会場でもスタンプラリーを実施しています。



③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

JGA WAGスクールの開催は、営利目的ではなく、地域自治体の皆様と共に住民の健康維持増進に役立てていただくためのものです。自治体の後援を得ることで自治体の広報誌へ掲載が可能となり、ゴルフをしない方の目にも触れ、健康維持増進の観点からゴルフ参加を加速させます。

また、ナショナルオープンの会場では、ゴルフ大会の観戦だけでなく、子供から大人まで楽しみながら参加できる様々なゴルフ関連イベントを開催しています。スタンプラリー「ごる印めぐり」では、会場内18か所にスタンプ台を設け、各大会の歴代優勝者の似顔絵や開催地域の公式キャラクターをスタンプにするなど工夫を凝らして、大人も子供も楽しんで参加していただくための内容としています。

このようなイベントを通じて、ゴルフ未経験者がゴルフ場に来場し、ゴルフを身近に感じ、そしてゴルフへ参加していただくような取り組みを積極的に行っています。



第5回Sport in Lifeアワード 団体部門 優秀賞



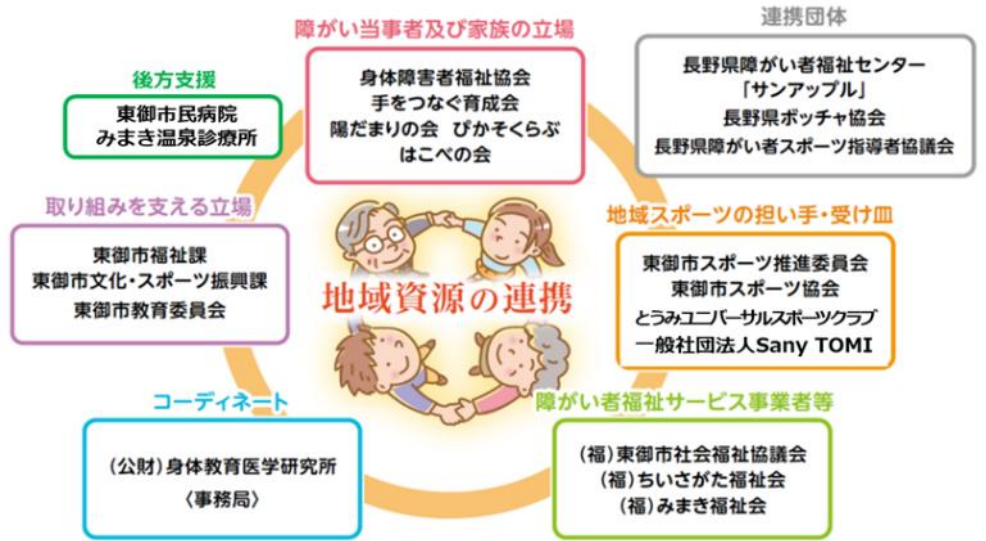
プロジェクト名	Para Sport in Life for Everyone ~誰もがパラスポーツを楽しむ地域づくり~
受賞者	公益財団法人身体教育医学研究所

所在地	長野県東御市
URL	https://pedam.org/

①取組の経緯

障がいのある人が楽しくからだを動かせる場づくりからの発展

長野県東御市では、障がいのある子どものご家族からの要望をきっかけに、障がいのある人が楽しくからだを動かす機会と、スポーツを通して障がいのある人とない人とが交流できる機会の創出を目指した取り組みを模索し、平成25年度から、当事者団体や支援者団体、行政等が参画した「みんなの健康×スポーツ」実行委員会を設立して、パラスポーツの機会を作る本格的な活動をスタートさせた。



この実行委員会の取り組みから、障がいのある人たちが定期的にパラスポーツを楽しむ「とうみユニバーサルスポーツクラブ」が発足した。当初のパラスポーツ実施者は、障がいのある人やそのご家族が中心だったが、徐々に保小中高の子どもたちや福祉施設利用者(障がい者・介護高齢者)、地域住民、企業の勤労者等へと広がり、多岐にわたるようになった。その結果、交流大会等の開催時には、多様な人たちが集い、交流の機会が自然と生まれるようになってきている。

②事業の概要と特徴

パラスポーツのインクルーシブな特性を活かし、多世代・多対象を巻き込んだ取り組み

パラスポーツは、障がいの有無や世代を問わず、からだを動かすことを楽しみながら交流が図れるインクルーシブな特性を有し、社会参加のきっかけづくりや、不活動から活動的な時間への転換等に最適なコンテンツである。東御市では、①集落や福祉事業所、学校他各種団体内での定期的なポッチャのサークル活動とリーグ戦の開催、②スポーツ協会内クラブでの定期的なポッチャ練習会の開催、③ポッチャ交流大会開催や地区スポーツ大会での競技採用、④市内全小中学校で車いすスポーツ体験授業とスポーツ用車いすの学校巡回による活用促進、⑤パラスポーツによる学校間交流会(パラ小学祭)の開催、⑥これらの活動を支える人材育成、に取り組んでいる。

③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

支える人材の充実で、パラスポーツ振興をさらに持続可能なものに

東御市では、市内のどこかでほぼ毎日パラスポーツが行われている状況にある。ポッチャの普及では、それを支える人材として、4階層(ディレクター～応援隊)に分かれた95人が活躍している。その構成は、スポーツ推進委員、社会福祉協議会が養成したサポーター、各サークル活動の代表者などであり、各種大会(イベント)の運営とともに、日常的なスポーツ活動の充実にも寄与している。

また、小中学校へのスポーツ用車いすの導入(期間常設)では、事前の教員研修等を行うことで積極的な活用(体育授業、総合的な学習、休憩時間や放課後活動等)につながった。加えて、市内全小中学校によるパラスポーツ交流会「パラ小学祭」は、地域共生社会に関する総合的な学習を兼ねて、児童自らが世話役となって運営された。パラスポーツ人口拡大に資する人材育成が進んでいる。

種目	平成30年 (%)	令和5年 (%)
ウォーキング	49.9	58.1
体操	37.8	40.5
トレーニング	18.4	19.1
しなな	14.1	14.5
ゴルフ	11.6	8.9
スキー・スノーボード	8.5	8.0
ランニング(駅伝等)	7.6	7.0
マラソン	7.4	7.4
登山(クライミング等)	6.5	6.2
ラケット競技	7.6	5.3
自転車(サイクリング)	4.9	4.2
ハイキング等	3.8	4.1
ポッチャ	3.2	4.1
水泳	5.3	3.8
その他	5.0	3.8
釣り	3.9	3.6
野球・ソフトボール	4.7	3.2
エアロビクス・ヨガ	4.0	3.0
ボウリング	5.3	2.7
バスケボール	1.7	1.8
サッカー・フットサル	2.6	1.7
バレーボール	2.6	1.1
アタラクシアサイズ等	1.7	1.1
わからない	0.7	0.6
音楽・剣道・空手	0.3	0.6

平成30年: 3.2%
令和5年: 4.1%
0.9ポイント上昇

他のメジャー種目特に団体種目中では実施率が最も高い種目になった。

2026/1/13パラ小学祭

プロジェクト名	ランニングと朝食 ～1,800名が参加する地域循環型スポーツコミュニティ～
受賞者	一般社団法人ランニングと朝食

所在地	東京都江東区
URL	https://www.randb.tokyo/

①取組の経緯

2016年、東京・清澄白河で、友人同士が週末に朝食を食べに走ったことから始まりました。

「ランニングと朝食」とは朝食を食べるためにおしゃべりしながら仲間と走る活動・コミュニティです。

速さや距離を目指すのではなく、初心者の方でも無理なく参加できるよう、会話できるペースで3～5kmほどを走ります。

コンセプトは「**はじまりの時間をシェアする**」
一人では続けにくい運動も、仲間と会話しながら走り、朝食を楽しむことで、無理なく続けられ、街の発見や新しい交流も生まれます。

②事業の概要と特徴

- ・都内中心に**全国23チーム**(清澄白河、皇居、両国、芝公園界限、山手線、東横線、世田谷線、葛飾、葛西、東西線、多摩川、中央線、小田急線、湘南、新潟、福島/富岡町、大阪/キタ、大阪/京阪奈、名古屋、福岡、フィリピン/マニラBCG、ふらっと、あちこち)
- ・**Facebookグループ参加者1,900名以上**
- ・子ども～70代まで、ランニング初心者～セミプロまで「朝食」を目的に多様な人たちが参加
- ・これまでに累計**1,500店以上の飲食店を訪問し、地域との交流や朝時間の消費創出にもつながっている** ※2026年2月時点

③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

「朝食を食べるために走る」「おしゃべりしながら走る」「寝坊OK」といったゆるい設計により、運動への心理的ハードルを下げています。

朝食を目的に運動・食事・コミュニケーションを自然に組み合わせることで無理なく継続でき、初心者を含む幅広い層の参加につながっています。

また、メディア掲載や参加者同士の紹介などを通じて、広告を行わず自然に広がり、現在は約1,900名が参加するコミュニティへと成長しています。



プロジェクト名	コンディショニングを起点にした全世代に向けた スポーツ・健康まちづくり
受賞者	北海道東川町

所在地	北海道上川郡東川町
URL	https://higashikawa-town.jp/

①取組の経緯

東川町では、
高齢化や生活習慣病予防、
子どもの体力低下といった地域課題を背景に、
「一人ひとりが自分のカラダに向き合う」
文化づくりを目的として、
株式会社R-bodyと協働し、
町全体でコンディショニングの普及に取り組んでいます。

介護予防教室や特定健診説明会での実践的な運動指導、
教育現場への授業導入、
町民と職員が共に体を動かすイベント開催、
移住希望者向けの体験機会の提供など、
行政・教育・福祉・移住施策を横断した形で実施しています。

多くのプログラムは無料で参加でき、
年齢や体力を問わず誰でも参加できる点が特長です。

町民・職員・子ども・移住者が
同一のコンディショニングプログラムを共有することで、
世代や立場を越えた交流が生まれ、
「健康が特別な取組ではなく、日常の文化として根づく仕組み」
が形成されています。

②事業の概要と特徴

- ・町民向けコンディショニングセッション: 月50回程度(年間約600回)
- ・町民向け講演会: 年3回程度(健康づくり・予防啓発をテーマに実施)
- ・町民向けスポーツ・健康イベント: 年10回程度(全世代参加型)
- ・義務教育(小中学校)への授業導入: 年間10回以上(正課・特別活動として実施)

年間を通じて町内各所で毎週複数回、誰もがコンディショニングに触れられる環境を整備



③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

本取組により、2021年7月の活動当初から現在までで延べ35,000名超(実人数3,000名)が
コンディショニングを体験し、町民アンケートでは「肩こり・腰痛の改善を実感」や
「日常的に自宅でもコンディショニングを行うようになった」とのコメントも多くあり、
イベント参加にとどまらない自発的な行動変容と運動習慣化が生まれています。

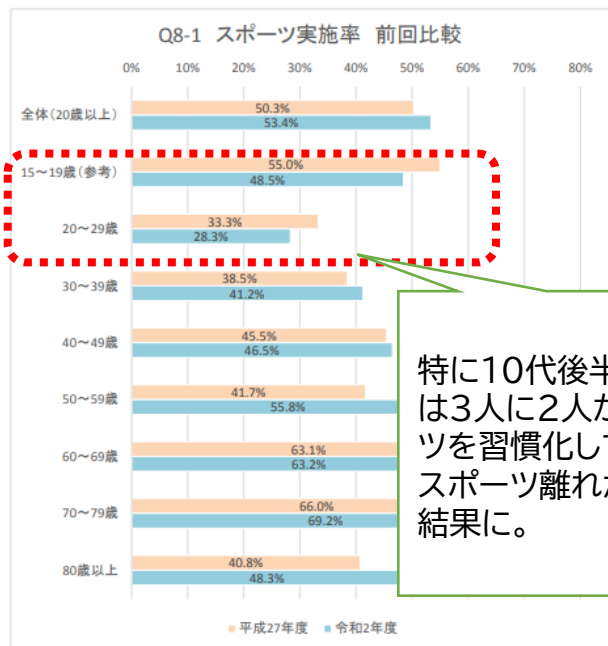
町民の全世代にコンディショニングでカラダを整えること、
日常のライフパフォーマンスの向上を届ける為に、
様々な場所、機会にて町民とコンディショニングの接点を多く創出しています。

また、こうしたスポーツ・健康まちづくりをまちの魅力として発信することで、
町のブランド価値向上にも貢献しています。

プロジェクト名	よりみちスポーツ — 商業施設発・日常スポーツ接点づくり —	所在地	埼玉県久喜市下早見85-3
受賞者	埼玉県久喜市	URL	https://www.city.kuki.lg.jp/

①取組の経緯

久喜市では、スポーツ実施率の伸び悩みや若年層のスポーツ離れなどの課題があった。従来の体育施設中心・目的参加型の事業では、非スポーツ層へのアプローチに限界があった。そこで、日常生活の導線上にある商業施設を活用し、「買い物ついで」に偶発的にスポーツに触れられる環境を設計。スポーツを“特別な活動”から“日常の延長線上”へ転換することを目的に取組を開始した。



特に10代後半~20代は3人に2人がスポーツを習慣化しておらず、スポーツ離れが顕著な結果に。

②事業の概要と特徴

商業施設内でのスモール体験イベントを起点に、段階的な接続設計を行った。

【STEP1】商業施設を活用したスモールイベント開催によるきっかけ提供

➡延べ 約2,000人が参加

【STEP2】体育施設を活用した大規模イベントによるスポーツ団体とのマッチングの場設定

➡健幸・スポーツフェスタ来場者 延べ3,669人

【STEP3】競技団体登録による継続化

ピクセルボール団体登録者数30名 → 130名(半年で約4.3倍)



単発イベントで終わらせず、体験から継続へと段階的に設計した点が特徴である。

③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

- ・日常生活における導線を活用することで、非スポーツ層への関心を高める
- ・心理的ハードルを低減し、参加のきっかけを拡大
- ・3段階にSTEPを設けることで、運動の習慣化を促す
- ・競技団体登録者の増加という具体的成果を創出
- ・商業施設との連携により持続可能な実施モデルを構築



スポーツを「目的」から「日常生活の延長線上」へ転換することで、継続的なスポーツ人口の拡大が期待できる。

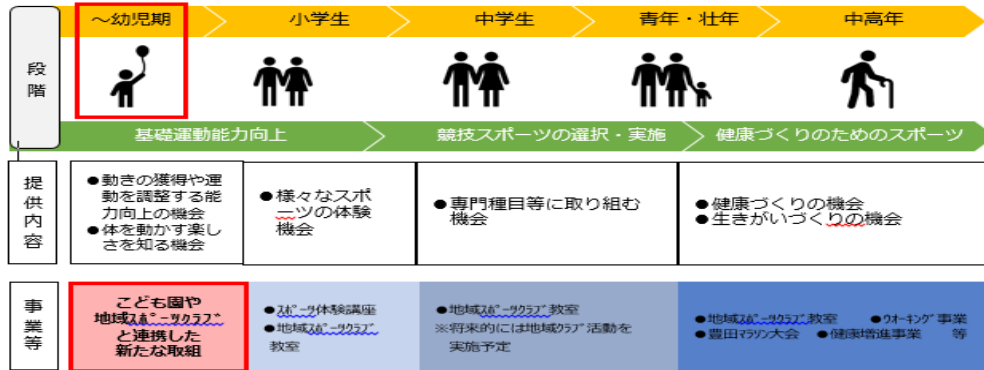
プロジェクト名	こどもの運動遊び教室	所在地	愛知県豊田市
受賞者	豊田市	URL	https://www.city.toyota.aichi.jp/kurashi/shogaigakushu/sports/1074708.html

①取組の経緯

幼児期の「プレ・ゴールデンエイジ」を、園・保育者・地域の力で未来につなぐ

【背景】

園児: 基本的な運動能力や基礎体力が大きく発達する重要な時期であり、この時期に多様な運動経験を積むことは、児童期以降の運動習慣の定着やスポーツ実施率の向上につながる
保育者: 園児の運動能力を高めるための知識や経験を習得する機会が少ない
地域: 地域によって運動環境に差があるため園児が十分な運動体験を得られないケースがあり、さらに園と地域スポーツクラブとの関わりの機会が少ないことから、地域スポーツクラブの活動が十分に認知されていない



【目的】

園児: 幼児期に多様な運動体験を通して、運動する楽しさや運動能力の基礎となるコーディネーション能力を育み、児童期以降の運動習慣につなげるとともに、全園で安全で質の高い運動遊びの機会を公平に提供する
保育者: 保育者が専門指導者から運動遊びの知識・技術を学び、日々の保育に活かして園児の発達に合わせた指導を行い、園全体で運動遊びの質を高める
地域: 地域スポーツクラブやスポーツ推進委員の指導力を高め、園との連携を強化して地域での支援体制を整え、幼児期からのスポーツ環境整備を通じて地域全体のスポーツ振興につなげる

②事業の概要と特徴

【方法】

対象園: 市内全ての園のうち、希望のあった園(83/93園)
対象児: 5歳児クラス(年長児)を対象
実施回数: 各園の各クラスにつき、年間1回・40分間の運動遊びプログラムを実施
人数: 1コマあたり最大30人を目安
実施場所: 園庭または遊戯室
指導者体制: 専門指導者1名(市スポーツ協会または地域スポーツクラブから派遣)
 指導補助者1名(地域スポーツクラブスタッフまたはスポーツ推進委員)

【内容】

・バランス・リズム・反応・連結など、7つのコーディネーション能力を高める運動遊び(ACP)
 ・園の希望に応じ、専門指導者がプログラムをコーディネート
 ・道具を使わず、園が日常的に再現しやすいメニュー中心に実施

【特徴】

保育者の参加: 担当クラス以外の保育者も参加し、専門指導者から指導方法を学び保育内容に運動遊びを取り入れ、園全体で継続的な運動機会を確保する
教材化・共有: こどもの運動遊び事例カード(全54種)を作成する
 全園に提供し、日常的に運動遊びが取り入れられる環境を整備する
地域連携: 地域スポーツクラブが各園と日程調整や要望の聞き取りを行い、関係性を構築する
 地域スポーツクラブと園が連携することで地域スポーツクラブ活動の理解を深める



<指導者が指導する様子>



<保育者・スタッフが参加する様子>



<事例カード>

③取組によってスポーツ人口の拡大が期待されるポイント

<Sport in Lifeの理念>

幼児期の運動遊びで楽しさと能力を育み、園・保育者・地域が一体となって全園に公平な運動環境を整え、未来の運動習慣とスポーツライフにつなげる

<スポーツ実施者の増加>

幼児期の運動体験で楽しさと意欲を育て、園と地域をつなぎ、全園に広がる体験の機会から家庭・地域まで運動参加の輪を広げる

<スポーツ習慣化の推進>

日常保育で楽しめる運動遊びと園・地域の連携で、幼児期から生涯にわたる運動習慣を育み、園児から地域全体へ運動の輪を広げる

<スポーツへの親しみやすさ>

幼児期に楽しめる運動遊びを通じて、園でも地域でも自然に体を動かす機会を確保し、保育者やクラブスタッフと一緒にスポーツを身近で楽しい生活の一部にする

<スポーツの裾野の広がりやすさ>

道具も場所も選ばず、事例カードと研修、園と地域スポーツクラブの連携で、どこでもこどもの運動体験と参加モデルを広げられる